

調査項目 ①「公園施設長寿命化計画実施にあたり、関連計画との整合のとり方及び管理データを活用した効率的、効果的な運用手法」に関する調査研究

調査年次 平成28年度（9次調査）

目的

現在、ほぼ全政令市で、公園施設長寿命化計画の策定が終わり、計画の運用をはじめているなかで計画と現実のズレが生じていることが課題となっている。このズレに適切に対処するとともに、計画を見直していくための手法や、計画書および国への申請方法の把握が求められている。

このため、今後は、策定した計画に基づき、効率的な維持管理、効果的な施設改築の推進、また、より運用しやすい計画に向け、継続的に計画策定手法、計画内容を改善し、見直しを進めていくことが求められる。

本調査においては、各地方公共団体が策定した計画の詳細について整理するとともに、計画の運用手法や課題を把握し、将来の計画見直しに役立てるほか、得られたデータの活用方法の検討など、公園施設長寿命化計画の有効な活用策を検討する。また、移動等円滑化のために必要な特定公園施設（便所、園路広場、駐車場）のバリアフリー化の推進にあたっては、長寿命化計画に位置づけた補修・更新の機会に合わせた整備や、逆にバリアフリー化のための整備と合わせた長寿命化対策の実施など、それぞれの整備を契機として同時に整備を進めることが効率的であることから、施設バリアフリー整備との関連についても着目する。

概要

以下の内容について調査を行った。

- ①予備調査
- ②公園長寿命化計画を取り巻く状況
- ③計画策定で得られたデータの活用
- ④特定公園施設のバリアフリー化について
- ⑤今後の長寿命化計画活用方法の検討

結果

長寿命化計画については、ほぼ全都市で策定済みであった。多くは国の指針に即して、判定方法、予防保全型管理と事後保全型管理の分類、使用見込期間の設定、など行っているが、国の指針を基本に独自の考えを加味している都市もみられた。運用にあたっては予算の不足や調査技術者の不足などにより7割が計画通り進んでおらず、必要に応じて計画の見直しが必要となっている。

また、バリアフリーについては、目標値を設定している都市は少ないが、バリアフリー対応施設を順次増やしていく考えはある。長寿命化計画と連携を図るため、公園施設のあり方といった基本的な方針を反映し、工事や再整備時にバリアフリーの考えや優先順位を反映している。

全都市でデータの整理はされているが、公園台帳システムは作成していないという都市もあった。

課題

予算不足、調査等における技術者の不足、予定外の事象への対応、必要に応じて計画の見直しに対応していくことが挙げられた。データの整理については、情報の更新の遅れや入力ミスなど適正な保守管理ができないことなどが課題として挙げられた。

調査結果の反映等

キーワード

公園施設長寿命化計画、バリアフリー、公園台帳システム

事例公園等

（一社）日本公園緑地協会「POSAシステム」